



京都府立医科大学  
NEWSLETTER

男女共同参画推進センター

NEWSLETTER  
2018.9  
vol.12

## 「キャリア支援コンソーシアム“えん”」キックオフ講演会・パネルディスカッション(その2)

平成30年1月20日(土) テーマ：医療現場における働き方改革

プログラム：

1. 総会 オープニング挨拶・司会：竹中学長

2. 講演会 「女性医師支援と医療職の働き方改革」

座長：加藤 則人（皮膚科学 教授）

講師：松永 佳世子

（藤田保健衛生大学医学部

アレルギー疾患対策医療学講座 教授）

3. パネルディスカッション 午後5時30分-6時30分

司会：矢部男女共同参画推進センター長

「本学医療職の働き方の現状と問題点について」（竹中学長）

パネリスト

池田 栄人（京都第一赤十字病院 病院長）

高山 浩一（呼吸器内科学 教授）

濱口千鶴子（女性センター 総括看護師長）

藤原 敦子（泌尿器外科学 学内講師）

中務 克彦（内分泌・乳腺外科学 助教）

追加発言（松永講演会講師）



ニュースレターVol.11に引き続き、「キャリア支援コンソーシアム“えん”」キックオフ講演会のパネルディスカッションをお伝えいたします。

### ●本学医療職の就業状況調査2017 竹中学長

昨年行った本学の就業状況調査の回答率は約30%で、回答者のうち大学院生が21.5%を占めているのが興味深かった。

北部医療センターと大学附属病院を比較すると、北部医療センターでは宿直の際に診察した患者数は大学本院より多くなっている。また、同じ職であると北部の方が年収が多くなるが、これくらい出さないと人が行かないのか、学長としてこれをどうするかということを考えていかなければならない。

診療科ごとに見ると、診療科によって宿直時の平均睡眠時間や雑用の量にばらつきがあるように思われる。

女性医師の85%強が医療職と結婚しており、男性は50%強が医療職と結婚している。年収を見ると、男性と女性の間に入りの違いが明らかにある。将来大学病院で働きたくない理由の「昇進・昇給・給与に不満」に女性の半数が該当と回答しているので、不満はあるかと思う。

雑用と言われるものの中に書類作成があるが、増加した、やや増加したという回答が多い。講演会の松永先生のお話にもあったが、医師が本当にする仕事なのかどうか、今回はそこまで踏み込んだ調査ができればよいと考えている。

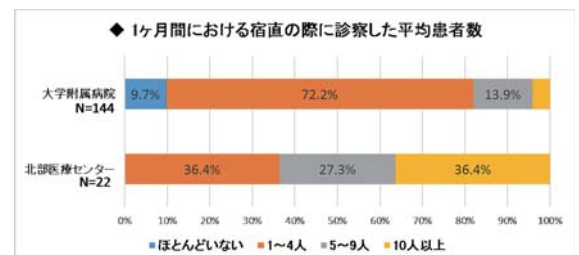
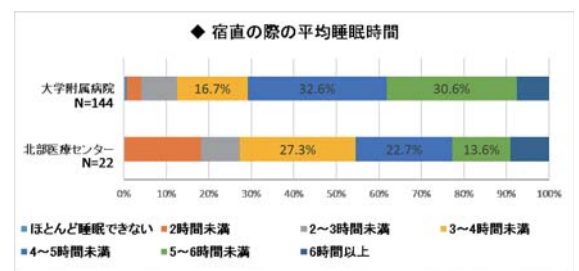
年代と生活優先度を見ると、55歳以上の人たちは仕事の優先度がかなり高い。30代で仕事優先度が最も低く、40・50代と年代に増えているのを見ると、ここを掘り下げて、ワークライフバランスを考えていく必要があるかもしれない。

看護師の場合は、年齢層が明らかにふたつ20代と50代のフタコブラクダのようになっているのが本学附属病院の特徴で、回答してくれていた20代の半分ぐらいが結婚している。

子育て支援について、病児保育室と学内保育所の継続希望について子育て世代である30代のニーズが高く、また55歳以上は管理職として若い世代の就業を求めると高くなっていると考えられる。

交代勤務感については、20代では「非常に負担を感じる」と「やや負担を感じる」が80%を占める一方、年代が上がるにつれて負担がなくなってきている。ここでしか働いていない人に違う働き方が見えるのかというのが大きな問題と感じる。仕事の満足度は「満足している」が少なく、若い世代がこれでは離職率が高くなってしまおうと感じる。

医師も看護師も30代で生活優先度を高める働き方改革を望んでおり、少しずつ変えていかないと難しい時代かなと考える。



## パネルディスカッション『医療職の働き方改革』

### ・本学就業状況調査結果について

・書類作成が多いので、クラークの数を増やし、ワークシェアをきちんと行うべきである（高山教授）  
 ・満足度が低いのは驚いた。残業が多いのが若い人の不満の原因のひとつと考えられる（濱口師長）  
 ・クラークがある程度書類作成の下書きをして医師は確認して捺印するという外の病院もあるが、大学では全て医師が行っているの、時間を取られている。また、何をすることもまず倫理委員会にかけることになるので書類から逃れにくい（藤原講師）

### ・働き方改革の現状

・医師の労働時間短縮に対する取り組みとしては、まず医師の労働時間の管理をきちんと行う必要があり、当院はタイムカード管理をしている。医師の勤務時間は平均より大きくオーバーしており、当直時間を加えるとさらに長くなり、いわゆる過労死のラインを超えている医師が230名ほどいるので、全員産業医が面談を行っている。タスク・シフティング、タスク・シェアリングについては、試行錯誤しながら少しずつというのが現状である。医師も看護師もチーム医療を行ったり、非常勤を増やして雇用の多様化を図っている（池田病院長）  
 ・3年前までは主治医制であったが、3人でひとつのチームで診るというチーム医療を行っている。また、夜間は当直医が基本的に診るということにしている（高山教授）  
 ・育児休暇や夜勤免除の期間が長くなり、数字的にはよくなっているが、早く職場復帰したいと思っても保育所の問題などで難しい場合がある。交代勤務については、部署によって2交代や3交代と柔軟性のある働き方ができればよい。（本院の出勤時間である）8時出勤に間に合う保育所は少ないので、出勤時間が少し遅くなれば働きやすくなる（濱口師長）

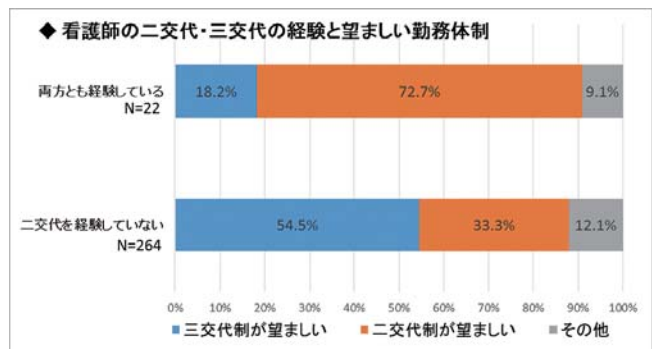
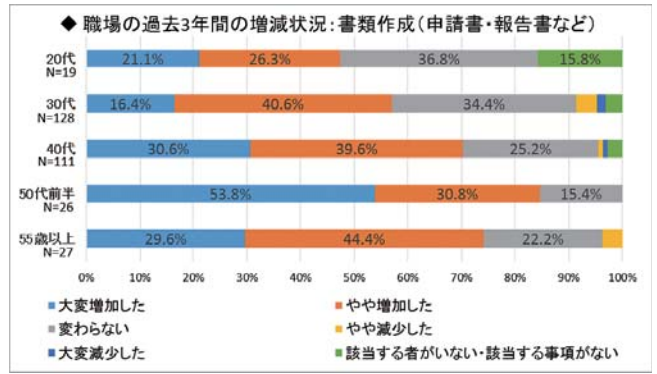


### ・今後に向けて

・常勤の女性医師が増えてきているので、産休の間カバーするのに非常勤の先生が必要だし、診療科の医師の定数がある程度必要だと思う（池田病院長）  
 ・例えば外勤では呼吸器内科医でなくてもできる場合は、内科の別の科の先生でバックアップできればよいのではと思う。また、電子カルテに自宅からアクセスできれば、自宅にいる時間でも仕事をカバーできるのではないかと（高山教授）  
 ・本院は各外来に師長がいるという珍しい体制なので、外来の統括師長になったときにリリーフ体制というのを作った。看護師ではなくても、クラークができる業務も多くあり、少しずつ見直していければよい（濱口師長）  
 ・泌尿器科もチーム医療が始まり、働きやすく、参加しやすい形になってきた。女性医師が働きやすいように、医局での決まりなどもつくりたいといけない（藤原講師）  
 ・人は宝である。夜間に呼び出しがある手術ができなくても、診断などでやっていける。女性であることがアドバンテージとなる科であるので、女性が輝ける科であるということアピールしていきたいと思う（中務助教）

### ・追加発言

・藤田保健衛生大学附属病院では、書類センターがあり、事務が書ける部分は書いて、医師が確認、必要な箇所を訂正して診断書を作成している。また、チェックイン、チェックアウトがあり、病院長が時間を確認し、きちんと労務管理を行っている。そして、手術件数を増やすために日曜日にも手術を行い、外科はフレックスにしているどの時間に働いてもいいようになった。  
 モチベーションを上げるために、予定していた以上に赤字になった場合は金額に応じて医局で自由に使える研究費が出る。



システム全てを急に変えるのは難しいと思うが、患者さんを安全に診るということを大前提に、医療職の働き方を変えていかなければならない。今働いている医師が楽しいと言わないと若い人が入ってこないし、医療界としても苦労して人を集めなければならぬと思う（松永教授・講演会講師）。

・今の問題は以前からずっと言われているがまだ進んでおらず、例えば病院で誰かが産休に入った場合、大学に代わりがいて派遣されるなど、もう少し皆が楽になるようにしていけばよい。魅力あるクラーク職を提供できるようにすることも挙げられる。

CCえんも外部からも意見を取り入れて、公立大学と言えどもフレキシブルに変わっていけばよいと思う（武曾CCえん世話人）。

### 「キャリア支援コンソーシアム“えん”」平成30年度講演会・パネルディスカッション

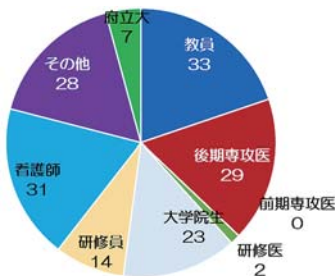
テーマ：**みんなで取り組む働き方改革**

開催日時：平成31年**3月24日(日)** 午後3時～

会場：京都府立医科大学 第一講義室（基礎医学学舎 1階）

## 病児保育室「こがも」

事前登録者の職位内訳(平成29年度 計167人)



病児保育室「こがも」は、平成23年7月の開室から8年目となりました。

平成29年度の登録者は167名、登録児数248名、利用児数延べ704名にのぼり、年々利用者は増えています。

web予約後には、速やかにお子さんの状態をEメールで送信いただきますよう、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 病児保育室「こがも」

URL <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/careroom/riyou.html>

Eメール [kodomo@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:kodomo@koto.kpu-m.ac.jp)

TEL/FAX 075-251-5272

## 学内保育所「くすのき」

開所日：2015年12月10日

受入対象者：府立医科大学及び府立大学の教職員（有期雇用教職員含む）の子（生後57日目から3歳未満）

開所時間帯：月曜日から土曜日（祝日及び年末年始除く）

午前7時30分から午後6時30分

運営方法：外部委託（株式会社アイグラン）

定員：26名

\*問い合わせ先：京都府立医科大学 研究支援課

TEL：075-251-5169 E-mail：[kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp](mailto:kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp)



## 男女共同参画推進セミナー&第133回研修医・学生のためのイブニングセミナー

男女共同参画推進セミナー&研修医・学生のためのイブニングセミナーを開催いたします。

テーマ：**新専門医制度とキャリア形成** 日時：平成30年**9月20日(木)** 午後6時～午後7時

会場：京都府立医科大学 臨床講義棟 南臨床講義室

司会：峠岡 理沙（皮膚科 講師）

1. 男女共同参画推進センターの取り組み 伊東 恭子副センター長（分子病態病理学 教授）

2. 内科の新専門医制度とキャリア形成  
座長：牛込 恵美（糖尿病治療学講座 講師）

① 内科新専門医制度について 中村 猛（循環器内科 学内講師）

② 内科専攻医の現状 豊田 真智子（糖尿病内科 前期専攻医）・水野 望未（呼吸器内科 前期専攻医）

3. 外科の新専門医制度とキャリア形成  
座長：阪口 晃一（内分泌・乳腺外科 講師）

① 外科新専門医制度について 阪口 晃一（内分泌・乳腺外科 講師）

② 外科専攻医の現状 大西 美重（内分泌・乳腺外科 後期専攻医）・森田 翠（内分泌・乳腺外科 大学院生）

4. 眼科の新専門医制度とキャリア形成 外園 千恵副センター長（視覚機能再生外科学 教授）



## 「キャリア支援コンソーシアム “えん”」メンバー募集



● 男女共同参画推進センターでは、昨年度4月に広報・啓発事業の企画・運営にご協力いただく「キャリア支援コンソーシアム“えん”(CCえん)」を立ち上げ、メンバーを学内外から広く募集しています。

## メンバーになると

1. キャリア支援に関する最新の情報が得られます
2. 各種相談の窓口としてご利用いただけます
3. 講演会等への講師を紹介・派遣します

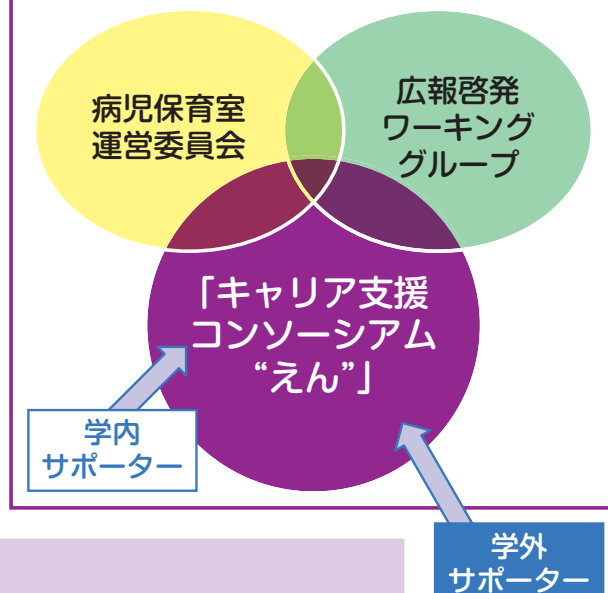
「CCえん」世話人 (H30.9.1現在)

## &lt;学外&gt;

竹村正子(竹村内科院長), 武曾恵理(京都華頂大学現代家政学部・食物栄養学科教授), 池田栄人(京都第一赤十字病院院長), 小林裕(京都第二赤十字病院院長), 糸井恵(明治国際医療大学整形外科教授), 田村秀子(田村秀子婦人科医院理事), 田邊智子(株式会社 京都メディカルクラブ 代表取締役社長), 平原直樹(京都きづ川病院泌尿器科部長), 佐藤礼子(厚生労働省大臣官房厚生科学課課長補佐) (卒業年次順)

## &lt;学内&gt;

田口哲也(内分泌・乳腺外科学教授), 高山浩一(呼吸器内科学教授), 加藤則人(皮膚科学教授), 福井道明(内分泌・代謝内科学教授), 藤原敦子(泌尿器外科学講師), 金子美子(呼吸器内科学助教), 峠岡理沙(皮膚科学講師), 牛込恵美(糖尿病治療学講座講師) (卒業年次順)

京都府立医科大学  
男女共同参画推進センター

学外  
サポーター

## 寄附のお願い

平成26年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、平成30年3月末現在、延べ個人73名、4医学教室、および33法人から5,425,000円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございます。

この寄附金でこれまでに病児保育室見守りシステムの設置と増設、臨床棟女子休養室の改修、講演会の開催及びニューズレター発行などの広報啓発事業を実施いたしました。

男女共同参画推進センターでは、今後とも長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者を支援していきたいと考えています。引き続き、皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>



## 寄附金に対する免税措置について

この寄附金は、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置を受けることができます。

**法人の場合** 法人税法により、全額を損金扱いとすることが可能です。

**個人の場合** 所得税法により、総所得金額から寄附金の額を控除することができ、税金の対象となる額が軽減できます。個人住民税(京都府、京都市にお住まいの方)についても控除の対象となっております。



- 平成30年度 フューチャー・ステップ研究員(非常勤短時間勤務制度)2名が採用されました。
- 公益財団法人京都府医学振興会からの支援(公益財団法人京都府医学振興会女性医師研究支援事業)により、研究支援員雇用事業を実施し、今年度は5名が選考されました。

## お知らせ

- 「女性研究者等支援相談窓口」を開設しています。ぜひ、ご活用ください。
- 休養・授乳・搾乳等のための女子休養室がございますので、ご利用ください。詳しくはHPをご覧ください。



## 男女共同参画推進センター

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465  
電話(FAX) : 075-251-5165  
Eメール : miyako@koto.kpu-m.ac.jp  
URL : <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel>